

# ●地下生菌の一種：ホシミノタマタケの仲間(*Octaviania nonae*)



グレバ(基本体)

外皮

菌糸束

地下生菌とは、地中に子実体(キノコ)を形成する菌類の仲間、有名な所では食用のトリュフやショウロ(松露)が知られています。地下生菌の仲間には、成熟期に地表に現われ、ネズミや昆虫に食べられる事で移動し、胞子が混ざった糞が排出される事で、胞子を遠方に散布するものが存在します。豚や犬にトリュフを探させるのはこの性質を利用しています。

今回は、瀬戸市の客先の工場敷地で、地表に現われたホシミノタマタケの仲間である*Octaviania nonae*を採取しました。この菌類は担子菌類に属し、子実体を割ると、褐色の胞子が詰まったグレバ(基本体)を見る事ができます。



*Octaviania nonae*の子実体を割ると、厚い外皮と黒褐色の胞子が詰まったグレバを見る事ができます。胞子は未熟の状態では褐色で、熟成が進むにつれて黒っぽく変化します。

地下生菌の生態や分類はあまり研究が進んでいないのですが、樹木や他の菌類と共生・寄生関係を構築する種も多く、生態学的に非常に興味深い生物です。またトリュフやショウロの様に自らを捕食する動物を呼び寄せるため独特の香りを発するものも多く、この臭気物質の生成メカニズム(代謝経路)を解明すれば、生物工学的に利用する事も期待できます。